



草津市の自然

滋賀自然環境研究会調査

2014



草津市

発刊にあたり

本市は、滋賀県内でも都市化が進む市のひとつである一方で、湖岸には内湖やヨシ原があり、そこから東に向かって田園が続き、そして活力ある市街地、さらには里山にアカマツやコナラの林が広がるといった多様な自然環境を有しています。

しかしながら、都市化の波が押し寄せるとともに、市内に生育、生息する動植物や、それらがつながりあう生態系全体も刻々と変化していると考えられます。

昭和53年（1978）に『草津市の自然』を調査して35年が経過したことから、この度、改めて『草津市の自然』を調査し、膨大な資料の中から結果概要をとりまとめました。本調査が、地域の生態系保全の基礎資料となり、また、市の自然環境を見つめなおすきっかけとなって、子どもたちが遊びを通じて自然とふれあう機会が増え、市民の皆様が日々の心の豊かさを得ることができるよう、うるおい豊かな環境づくりに向けて取り組んでまいります。

平成27年3月

草津市長 橋 川 渉

はじめに

草津市では、市民の生存の基盤である地形・地質と植生の把握、市域に生息・生育する野生動植物種の分布情報およびそれに関連して存在基盤が脆弱で減少傾向にある種などについて、地形・地質、植生、緑環境、植物相、哺乳類、鳥類、両生・爬虫類、昆虫類、魚類、水生動物の10分野の総合学術調査を、平成24（2012）年度と25（2013）年度の2年間に実施しました。その結果、新知見や草津市にとって極めて貴重な新情報などとともに、広範で精度の高い、膨大な内容の『草津市の自然』を学術調査研究報告書としてとりまとめました。

本書は、その学術調査研究報告書『草津市の自然』のごく一部について、概要版として草津市の自然をひとつおりわかりやすく解説しています。いくらかでも草津市の自然に関心をもち、自然への理解を深めていただくのに少しでもお役に立てば幸いです。

平成27年3月

執筆者代表 小 林 圭 介

調査した生き物と調査概要

平成24(2012)年度から平成25(2013)年度にかけて、地形と地質、植物（植生と緑環境、植物相）、哺乳類、鳥類、両生類・爬虫類、淡水魚類、水生動物、昆虫類の調査を行いました。概要はつぎのとおりです。

1	地形と地質	3
	<ul style="list-style-type: none">• 山地は岩石、丘陵地や湖岸段丘は主に砂礫層から構成されていることがわかりました。• 市の面積の75%は沖積低地で、土砂におおわれており、古くから生活の場として利用されていることがわかりました。	
2	植生と緑環境	6
	<ul style="list-style-type: none">• 川や琵琶湖などの水辺には、ヨシ原やヤナギ林など自然度の高い植生が生育していました。• 市街地では神社などに樹林が点在していました。• 市南端に、里山のアカマツ林やクヌギ-コナラ林などの樹林が分布していました。• 35年前の緑の量と比べると、丘陵地の樹林、平地の水田や畑が、市街地や工場に変わり、大変減少していることがわかりました。	
3	植物相	12
	<ul style="list-style-type: none">• 1287種を確認しました。そのうち268種は帰化植物でした。• ヒメビシ、ミズタカモジグサなど、絶滅が危惧される植物52種を確認しました。	
4	哺乳類	15
	<ul style="list-style-type: none">• 哺乳類が生息できるようなまとまった森林がほとんどないため、生息する哺乳類は限られています。• 大型の種ではシカ、イノシシ、小型の種ではコウベモグラ、テンなど合わせて11種を確認しました。	
5	鳥類	18
	<ul style="list-style-type: none">• 113種を確認し、そのうちの52種は絶滅が危惧される鳥類でした。• 湖岸地域のヨシ原では絶滅が危惧されるサンカノゴイなどが確認されました。• 猛禽類では、チュウヒ、オオタカ、コチョウゲンボウなど12種が確認されました。	
6	両生類・爬虫類	21
	<ul style="list-style-type: none">• 両生類は11種、爬虫類は13種を確認しました。• 南部の山地で多くの種を確認しました。• 湖岸の水田地帯では、絶滅が危惧されるナゴヤダルマガエルを確認しました。	
7	淡水魚類	24
	<ul style="list-style-type: none">• 34種（亜種を含む）を確認しました。• 水路では、絶滅が危惧される魚類9種を確認しました。	
8	水生動物	27
	<ul style="list-style-type: none">• 昆虫類105種、甲殻類7種、貝類13種、その他4種、計129種の水生動物を確認しました。• キイロサナエやシマゲンゴロウなど、絶滅が危惧される水生動物9種を確認しました。	
9	昆虫類	30
	<ul style="list-style-type: none">• 1368種を確認し、そのうちの35種は絶滅が危惧される昆虫類でした。• ナガサキアゲハなど、温暖化の影響で北へ分布域が拡大したと言われている種が確認されました。• 35年前の調査と比べると、外来種が増加していることがわかりました。	